

# 平成 23 年度 経済学部活動報告

## 1. 環境方針

### <基本理念>

本学部は、教育および研究を通して、環境改善の啓発活動および環境保全活動を積極的に実施し、環境に配慮できる人材を育成することを社会的使命として認識し、持続可能な社会の発展に貢献する。

### <行動指針>

- 1) 環境マネジメントシステムを構築し、環境マネジメントシステムの全容を全ての教職員、学生に周知し、これを継続的に運用して改善を図る。
- 2) 環境に関する教育研究活動を実施し、環境保全にかかわる意識を高め、環境保全活動を普及し、環境に配慮できる人材を育成する。
- 3) 環境保全および改善のために省資源、省エネルギー、水使用量・廃棄物の削減、リサイクル、グリーン購入を積極的に実施し、環境負荷の低減に努める。
- 4) 教育・研究・学内行政などあらゆる活動において、環境に関連する法令、条例、協定および学内規程等を遵守する。
- 5) あらゆる人に環境活動レポートを公開し、環境保全および改善に対する、本学部の取り組みへの協力と理解を求める。

## 2. 経済学部の概要

- ① 教職員数：48名
- ② 学生数：経済システム課程（国際経済社会・総合政策コース）641名  
経営・法律課程（企業経営・法務管理コース）630名
- ③ 延べ床面積：5,087 m<sup>2</sup>

## 3. 環境目標

	環境目標	単位	平成21年度	平成22年度	平成23年度
1	二酸化炭素排出量(電気使用量)の削減 (平成19年度実績をベースに平成23年度までに2%削減する)	kwh	1%削減	2%削減	2%削減
2	コピー用紙使用量の削減 (平成20年度実績をベースに平成23年度までに3%削減する)	枚	2%削減	2%削減	3%削減
3	使用水量の削減 (平成17年度実績をベースに平成23年度までに2%削減する)	m <sup>3</sup>	1%削減	2%削減	2%削減

	環境目標	単位	H.24年度	H.25年度	H.26年度
1	二酸化炭素排出量(電気使用量)の削減 (H.22年度実績をベースにH26年度までに3%削減する)	kwh	1%削減	2%削減	3%削減
2	コピー用紙使用量の削減 (H24年度はH.22年度実績をベースに3%削減する) (H25、26年度はH.22年度実績をベースに1%削減する)	枚	3%削減	1%削減	1%削減
3	使用水量の削減 (H.22年度実績をベースにH26年度までに1%削減する)	m3	0.5%削減	0.5%削減	1%削減

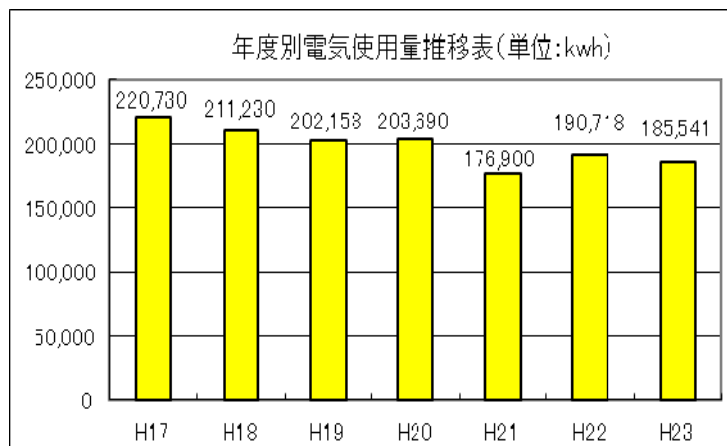
※これまでの活動をもとに平成 24 年度からの 3 年間の環境目標を設定した。

#### 4. 活動実績

##### ①. 二酸化炭素排出量（電気使用量の削減）

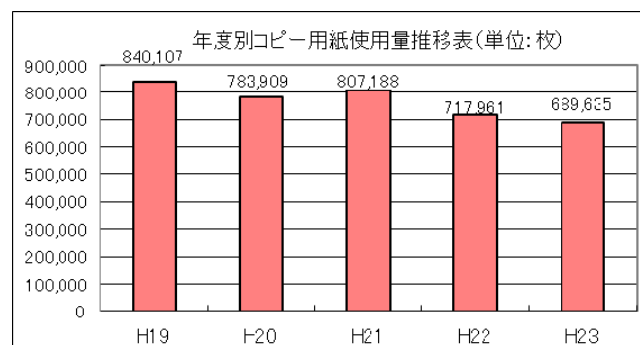
平成 23 年度における二酸化炭素排出量（電気使用量）は、平成 19 年度比で約 8.2%減少、平成 23 年度比で約 6.3%減少しており、環境目標を達成している。

平成 23 年 8 月に経済学部棟 4 号館のトイレ改修工事が行われ、照明のスイッチに人感センサーが導入されたこと、および教職員・学生への節電に関する意識が高まっていることによる効果が表れている。また、平成 24 年 3 月に経済学部棟 4 番・5 番教室の照明を LED に変更したことで、平成 24 年度はこれによる効果が出てくることが期待される。今後もさらなる電気使用量の削減に取り組む。



##### ②. コピー用紙使用量の削減

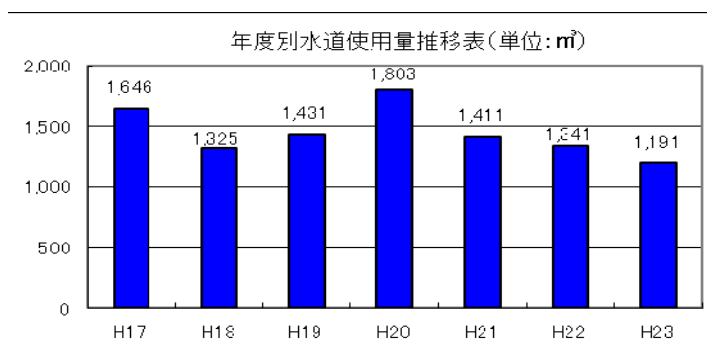
平成 23 年度におけるコピー用紙使用量は、平成 20 年度比で約 12.0%減少、平成 23 年度比で約 9.3%減少しており、環境目標を達成している。また、平成 23 年度において紙ゴミ回収ボックスで回収した紙の量は 3,424.5 kgであった。平成 21 年度は 1,268.6 kg、平成 22 年度は 2,600.5 kgであったことから紙ゴミ回収ボックスの意義が浸透し、分別された紙ゴミ量が増加していると考えられる。今後も紙ゴミ回収活動を通してゴミ分別を徹底していく。



##### ③ 使用水量の削減

平成 22 年度における使用水量は、平成 17 年度比で約 27.6%減少、平成 22 年度比で約 26.1%減少

しており、環境目標を達成している。平成 23 年 8 月に経済学部棟 4 号館のトイレ改修工事が行われ、水道に人感センサーが導入されたこと、および教職員・学生への節電に関する意識が高まっていることによる効果が表れている。



## 5. 代表者による全体の評価と見直し

すべての環境目標（二酸化炭素排出量（電気使用量）、使用水量、コピー用紙使用量の削減）を達成している。特に平成 23 年度は東北大震災があり、夏場・冬場における節電要請による節電を周知徹底し、各教職員が積極的に取り組みを実施した成果が表れている。平成 24 年度も同様の取り組みを推進していく。

また、平成 23 年 8 月に経済学部棟 4 号館のトイレの改修工事（人感センサー導入など）が行われ、電気使用量および水使用量の削減に貢献できたと考えられる。廃棄物の削減については、平成 21 年度から実施している紙ゴミの回収による成果および両面印刷の徹底などの効果が表れている。

平成 23 年 3 月には経済学部棟 4 号館の 4 番・5 番教室の照明を LED に取り換えたことから平成 24 年度の電気使用量の削減につながると推測される。

学部長 平地 一郎

## 6. 教育から環境への取り組み

経済学部の地域経済研究センターでは、さまざまな活動をしており、平成 23 年度は次のような環境に関連した活動や教育を実施した。

### ① ウォッチング佐賀

ウォッチング佐賀は経済学部の地域経済研究センターの活動の一環であり、一般市民・学生を対象にさまざまな体験学習を行っている。

### 第 57 回 水俣病関連地巡り

平成 23 年 9 月 26 日(月)～27 日(木) に水俣病関連地を巡るウォッチング佐賀を実施した。参加人数は佐賀大学生 8 名、市民 2 名、引率 4 名の合計 14 名であった。1 日目は水俣病センター

相思社の弘津敏男氏をガイドとして、茂道・親水護岸（水俣湾埋立地・水俣病犠牲者慰霊碑）、百間排水口などを見学し、弘津敏男氏による「水俣病センター相思社の活動について」の講義を受け、水俣病歴史考証館を見学し、水俣病患者・生駒秀雄氏の話聞いた。2日目は、チッソ・JNC水俣工場を見学し、胎児性・小児性水俣病患者さんの共同作業所「ほっとはうす」で昼食をとり、ほっとはうすの「水俣病を伝えるプログラム」に参加した。



#### 第 59 回 資源の有効活用を学ぶ

平成 24 年 2 月 20 日(月)に資源の有効活用を学ぶをテーマにウォッチング佐賀を実施した。参加人数佐賀大学生 3 名、市民 35 名、引率 2 名の合計 40 名であった。この企画は九州電力・八丁原地熱発電所展示館を見学し、サッポロビール九州日田工場を見学し資源の有効活用について学習した。

#### ② エコ活動 ぐるりんおゆずりマーケット

1998 年度から始まった活動で、卒業生から不用になった自転車・家電製品・家具などを引き取り、それらを新入生や在校生・留学生に提供するマーケットを年に 1 回、3 月下旬～4 月上旬に開催した。